

事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和5年3月1日

事業所名 En療育ラボ 新宿スタジオ

職員数 15名 回収数 15 割合 100%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	事業所としての改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			適切である
	2	職員の配置数は適切であるか	○			適切である
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○			必要に応じて車いすが通れるようにスロープを設けている
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○			各療育終了後にアルコールをしている。壁の角などにコーナーガードを貼っている
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			毎回お子様の様子を共有している
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			こまめに保護者の要望を聞き、すぐに対応している
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			保護者、従業員アンケートを行い、結果を共有し話し合い改善に努めている
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			保護者アンケートを行い、そこでの意見を共有し改善している
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			実践研修、WEB研修を空き時間に行っている
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○			職員、保護者と話し合い個別支援を立てている
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			使用している
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○			全職員で話し合い、様々な項目に沿って具体的な計画を立てている
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			定期的に支援計画を確認しながらプログラムを立てている
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			積極的に毎日話し合いが行われている
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			前回担当した先生から共有されていたり、先生同士でのアドバイスを受けている
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○			終礼の際に子どもの様子を共有し必要に応じて意見を出し合っている
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			割り振りの際に話し合い、前回の療育内容や様子を共有している
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			毎日の終礼で共有し意見を出し合っている
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			気になることやすぐに療育に取り入れるべきことはすぐにメモを取り、次回から生かせるようにしている
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○			している

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		理学療法士や保育士など資格保持者が参画している
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		理学療法士が在籍しているため医療ケアが出来ている
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○		行っている
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○		医療機関に通った際の結果や状況を保護者から聞き、共有しあっている
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		必要に応じて療育リーダーや児発管が保育園などに行き、担当の先生から情報を得ている
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		図っている
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		助言を元に療育を行っている
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	○		フィードバックでしっかり伝え共有事項を終礼で伝えている
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		家で出来る方法やどのように効かかを教えている
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		来所やフィードバックの際に子どもの様子を聞き、それに沿って療育している
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		家庭での様子を細かく聞き、それに沿った療育やアドバイスを伝えている
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約の際に丁寧に説明を行っている
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		苦情があった際になぜそうなったのか今後どうしていくかを話し合い共有している
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		ブログを日々更新している
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		外部に送る際に2重にチェックしている。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		月に一回、茶話会や子育て個別相談会を行っている
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		HPのブログやメールで配信している
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		十分注意し、外部に書類を送る際は2重チェックしている。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		している
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		研修や虐待ニュースについてよく話し合う

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		実施している
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		定期的に訓練を行っている
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		保護者からの情報やプロフィールに書いてあることを把握し、常にそれを意識している
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		食べ物を口にする機会が運動療育なので特にならない
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		なぜヒヤリハットが起きてしまったかなど改善策を話し合い共有し、ヒヤリハット報告書に記載している
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		共有し次の療育へいかしている
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○		保護者と相談し合いそれを元に半年に一度個別支援計画作成し、内容を全職員で把握している
合計数					